

一人ひとりに寄り添う政治を。

そ世
だ田
ち谷

つるみけんご

無所属
世田谷区議会議員通信
Vol.30

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる”一人ひとりに寄り添う政治”の実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

つるみけんご

鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年)10月12日生まれ 38歳
 - 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部(バイオサイエンス学科卒)
 - JA東京中央会 元職員
 - 衆議院議員 長妻昭 元秘書
 - 公務員試験専門 喜治塾 元講師
 - 2019年世田谷区議会議員選挙で初当選(4491票)
 - 現在、2期目(4755票)
- 区民生活常任委員会
DX・地域行政・公共施設整備等推進特別委員会



つるみけんごは“認知症サポーター”です！

こんにちは。

この度はつるみけんご通信Vol.30をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

本通信では、令和7年第1回世田谷区議会定例会における予算質疑と一般質問の内容をまとめました。

お読み頂けましたら幸いに存じます。

※今回のチラシでは質問の一部を抜粋しております。

議場での質問の様子は、右のQRコードよりご覧ください。



世田谷区議会
インターネット
議会中継

つるみけんごの
会議の録画映像を
ご覧いただけます。

令和7年予算特別委員会における質疑

区議会では、毎年3月に予算特別委員会を開き、次年度の予算を審議します。総括質疑から始まり、企画総務、区民生活、福祉保健、都市整備、文教の5領域に、最後の補充質疑を加え、7日間にわたり質疑を行います。その一部ではありますが、要約してお伝えいたします。裏面は一般質問の一部を抜粋しています。

すべての区立学校を誰もが通いたくなる場所へ

質問 区は新設を予定している「学びの多様化学校(不登校特例校)」を「誰もが通いたくなる環境」とすることを目指すと言われるが、これは本来、区立学校全90校が担うべき責務である。不登校児童生徒の増加を踏まえ、学校がどう変わっていくべきか、お考えを伺う。

答弁 学びの多様化学校で実践、検証した教育課程等を全ての学校で実態に合わせて実施することにより、魅力ある学校、安心して通いたくなる学校へと変革することを狙いとしている。

【つるみけんごコメント】

学校を新設し、実践、検証を経て、各学校で実施となれば、一体何年かかるのでしょうか。区では、毎年不登校の児童・生徒が増加しています。子どもの成長を止めることはできません。

「今」学校がどう変わるべきか、教育委員会はそのことに向き合うべきです。

責任ある予算編成を

質問 区は「令和7年度予算は『学習する都市推進予算』として編成した」と言われたが、その経緯と理由を伺う。

答弁 特徴をわかりやすく知らせるためキャッチフレーズをつけた。

【つるみけんごコメント】

次年度の区政運営に関わる予算のテーマが、なんと「後付け」なのです。区は区民生活に対し、責任ある予算編成をすべきです。最終日の補充質疑では、「予算編成プロセスの透明化」を求めました。

窓口混雑解消・たらいまわしゼロに向けて

質問 区が「区民に時間を返す改革」を掲げて以降、むしろ、区民意識調査では、応対で待たされた、たらい回しにされたと答える方が増加している。改善を求める。また、改善の実態を「見える化」するため、明確な目標数値を掲げるべきではないか。お考えを伺う。

答弁 定量なのか定性なのか、委員お話の「見える化」について数値なども含め検討していく。

【つるみけんごコメント】

区民意識調査は毎年実施しているので、その数値を毎年下げることが目標とすべきです。

質問

物価高騰の今、区民利用施設の値上げは見送るべきです。

～区民生活の現状に鑑み、区民利用施設使用料の値上げ見送りを～

質問の要旨

区は、物価高の影響で区民利用施設の維持管理運営費が増加したことを理由に「**区民利用施設の値上げの方針**」を決定しました。一方で区民への影響を抑えるための物価高対策を行うと言いながら、他方で物価高のしわ寄せを直接区民に転嫁しようとしており、区への対応は矛盾しています。

区が示す当初予算案では、区の歳入の柱である特別区税について、126億円の増加が見込まれています。3年連続の実質賃金のマイナスとなるなど、区民は物価高の影響により使えるお金が減る一方で、区は126億円も歳入が増えているにもかかわらず、さらに追加で区民に負担を迫っているのです。

物価の高騰で日々苦しんでいる今の状況において、区民にさらなる負担を強いる区の判断に、正当性があるとは思えません。見解を伺います。

区の答弁の要旨

区民生活を支える施策には、困窮世帯への家計を緊急・直接に補助するなどの短期的な施策以外にも長期的な目線として施設の維持管理に必要な資源を確保していくことが必要と考えており、今後も管理運営経費の増減に基づき定期的に施設使用料の見直しを行う必要があると考えている。

つるみけんごコメント

物価が上がれば、管理運営経費が上がるのは当然です。物価とともに賃金等が上がっているのであれば、使用料を上げるという判断は一定程度理解できますが、今は物価高騰に賃金上昇が追いついていないため、生活が厳しくなっているのが現状です。**今このタイミングで上げるべきではない**、というのが、つるみけんごの考えです。

区民利用施設使用料の値上げに係る議案すべてに反対しました。

つるみけんごは豊かな区民生活を守る観点から、以下の意見を申し上げ、今回、区が議会に提案した区民利用施設の使用料値上げ関連議案すべてに反対しました。

「区自ら物価高対策を行う今この時に、もう一方で、物価高の影響を直接区民に転嫁し、負担を強いることは、矛盾しています。物価高騰で区民が厳しい生活を迫られていることを認識しながら、このタイミングで値上げをするという区への考えは全く理解できません。これまで、区に対し、今回の値上げを一度見送ることを求めて参りましたが、結果として、受け入れていただくことができなかったことは残念でなりません。せたがやの風(※)としては、今回の値上げ方針に、賛同することはできません。

よって本議案に反対いたします。」

(※) せたがやの風は、つるみけんごの会派名です。

質問

令和7年度予算は、「高齢者置き去り予算」になっていませんか？

～子どもも高齢者も安心して、豊かに暮らし続けられる世田谷へ～

質問の要旨

今回の令和7年度当初予算概要では、子ども・若者・教育については数多くの新規事業が示されています。一方で、高齢者施策に関しては新規事業の記述が極端に少ないのです。

子ども施策と高齢者施策は対立させてはいけません。どちらも両立し、両施策の効果が循環し、地域全体が持ち上がる、その全体像を描くことが基礎的自治体の役割であるはずで

子ども・若者・教育施策の重要性は当然理解いたしますが、今回の予算案が「**高齢者置き去り予算**」になっていないか、疑問を持ちます。

子ども関連施策と高齢者関連施策の新規事業数の内訳について極端な偏りがないか、区のご認識を伺います。また、改めて、高齢者施策についての区への考え方と、予算案への反映について見解をお聞きます。

区の答弁の要旨

令和7年度当初予算案概要において、「子ども・若者」「教育」分野での新規事業は19件、高齢者施策は3件となっているが、あんしんすこやかセンターの人員体制の強化や補聴器購入費助成の対象拡大など、高齢者が安心して暮らせるよう必要な予算を計上している。

つるみけんごコメント

高齢者の皆様はこの答弁をお聞きになられて、安心して暮らせますか？子どもは地域の宝です。子どもへの投資は当然重要です。一方で、人は誰でも年を取ります。幾つになっても安心して暮らせる地域社会を構築するための費用は、翻って私達働く世代や若い世代の方々にとっての「**未来への投資**」でもあります。子ども施策と高齢者施策を対立構造にせず、**両立し発展させていく**ことこそ基礎的自治体の役割です。これからもあらゆる世代が、安心して楽しく暮らせる世田谷の街を目指して、提言を続けて参ります。

つるみけんご事務所

〒154-0003 東京都世田谷区野沢4-14-4

TEL.03-6322-0575

✉ kengo@k-tsurumi.net 🌐 <http://k-tsurumi.net>

つるみけんご
日々の活動
発信中

Facebook

Instagram

Twitter

YouTube

